

沖縄県平和祈念資料館だより

平和教育の拠点として

沖縄県平和祈念資料館では、平成28年7月から本年6月まで、NPO沖縄平和協力センターが実施するJICA草の根技術協力事業「沖縄・カンボジア 博物館から発信する平和教育普及プロジェクト」に協力パートナーとして参加しました。

この事業は平成21年から平成26年の6年間、本館と県立博物館・美術館が実施主体となっていたカンボジアのトゥール・スレン虐殺博物館への支援事業の延長線上にあるものです。カンボジアは、約40年前にポル・ポト政権が当時の知識層を中心に、罪のない国民を拷問・虐殺した悲惨な歴史があります。虐殺された人の数は180~200万人と言われています。当時のプノンペン市内で政治犯が収容・虐殺された場所は、学校の校舎で、現在そこが「トゥール・スレン虐殺博物館」としてユネスコの記憶遺産にも指定されています。同博物館は、当初、悲惨な住民虐殺の歴史的事実を伝える施設に留まっていたが、上記の支援事業により、沖縄県平和祈念資料館のように、歴史的事実を伝えるとともに、恒久平和への願いを発信する平和拠点へと変わりました。その後、虐殺の歴史を知らないカンボジアの若い世代への史実の継承と、平和教育の必要性が認識され、今回の平和教育普及プロジェクトへと繋がったのです。このプロジェクトの成果のひとつとして、カンボジアではプノンペン市内の公立学校の生徒に対し、トゥール・スレン虐殺博物館の見学と平和講話が実施されることになりました。ポル・ポト

政権時代に多くの知識人が虐殺され、国の制度が根底から破壊されてしまったカンボジアは、当時の敵味方が協力しあって国を再建しなければならず、国の復興も未だ道半ばといえます。

公立の学校では、校舎も教師の数も足りず、学校は午前部、午後部の2部制で、生徒はいずれかの時間に授業を受けます。このような中、文化芸術省と教育省の両大臣が合意し、国家プロジェクトとして平和教育への取組を始めたことは、沖縄の平和を希求する心が理解され、沖縄県が取り組んできた平和教育の重要性が認められた証でもあると思います。沖縄県平和祈念資料館は、設立理念である沖縄戦の実相と教訓の継承、平和を希求する心の発信を具現化する平和教育の拠点として活動を続けてきましたが、このような形でカンボジアの平和教育を支援できたことを嬉しく、また誇らしく感じています。また、今回の成果は、本県における学校等教育機関や地域・家庭の平和教育への取組が実った結果でもあり、感謝の気持ちで一杯です。戦後72年を経て、体験者が減少していく中で、平和教育の重要性が叫ばれています。これからも当館は平和教育の拠点として、その役割を果たしていきたいと思ひます。今後とも当館が平和教育を推進していくため、地域・家庭、関係機関の皆様の連携・ご協力をよろしくお願いいたします。

沖縄県平和祈念資料館館長 原田 直美

第27回 児童・生徒の 平和メッセージ

図画部門最優秀賞作品



小学校低学年の部
真喜良小学校2年 石川 日世里



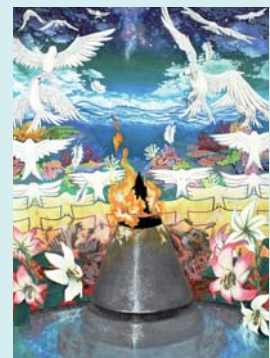
小学校高学年の部
山田小学校6年 木田 夕海



特別支援学校の部
沖縄高等特別支援学校
南風原分教室3年 天願 綾音



中学校の部
上野中学校3年 仲宗根 莉愛



高校の部
知念高等学校1年 久手堅 彰哉

第27回「児童・生徒の平和メッセージ展」報告

沖縄県教育委員会との共催で毎年実施している「児童・生徒の平和メッセージ展」は、今回27回目を迎え、127校から3,067点の応募がありました。審査員からは、児童・生徒が平和について真摯に向き合い平和の実現に何が必要か、自分たちに何ができるのかを真剣に考えたことが作品から伝わったと、高い講評がありました。また平和を学ぶ機会として「児童・生徒のメッセージ」事業は意義深く今後も継続して欲しいとの要望も受け、平和教育の拠点として責任の重さを痛感しました。展示会は以下の日程で行われます。

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| ■ 沖縄県平和祈念資料館 | 6月23日(金)～7月5日(水) |
| ■ 八重山平和祈念館 | 7月12日(水)～7月22日(土) |
| ■ イオン名護ショッピングセンター | 8月2日(水)～8月9日(水) |
| ■ 県庁1階(県民ホール) | 8月14日(月)～8月18日(金) |
| ■ 宮古島市役所 | 9月12日(火)～9月22日(金) ※平日のみ |
| ■ 米国ハワイ州 | 平成30年2月上旬 |



展示会の開会式テープカット



作文の朗読をする運天さん(与儀小)

えがあでへいわをつくらう

石垣市立白保小学校 一年 森 心羽菜

(第27回「児童・生徒の平和メッセージ」作文部門 小学校低学年の部 最優秀賞作品)

きょうがっこうで、へいわのおはなしをきいたよ。わたしは、へいわっていうことばがなにか、わからなかったけど、すこしわかったよ。それは、おうちで、おとうとがけんきいっぱいなくこえがすることかもしれないな。だって、へいわじゃないと、あかちゃんは、おおきなこえで、ないたり、できないからだよ。わたしは、おとうとがだいすき、まだはちかげっただけど、とってもかわいいよ。こはなのたからものだよ。わたしはいつもとまたちと、わらったり、じてんしゃにのってあそんだり、けんかをしたりするけどけんかをして、ともだちは、ゆるしてくれるよ、こはなも、

「ごめんね、こはなもわるかったよ。また、いっしょにあそぼうね。」

「いいよ、わたしこそごめんね、また、なかよくしてね。」

というよ。せかいのくにも、こはなたちみたいで、

「ごめんね、なかよくしよう。」

と、いえはいいのにな。そうすれば、くんとくこのけんかもすべおわるのにな

みんなのえがおが、せかいにいっぱいさくといいな

おとうさんとおかあさんがわらうところがあたたかくなる。

おいちゃんとおとうとはこはなのたからもの。おともだちのわらいこえ、せんせいのやさしいこえ、もーといううしのこえ、白保のみんながえがおになったらいいね

みんながわらうといいきもち、わらいこえがみんなをやさしくするよ。てをつないだら、もっとうれしいよ。

みんなのこころをえがおでつないで、へいわにしたい。みんなで、わらってわらって、せかいをへいわにしていこう。

第27回「児童・生徒の平和メッセージ」入選者一覧(優良賞以上)

図画部門

小学校(低)の部(8名)

最優秀賞 石川日世里(真喜良小2年)
 優秀賞 工藤福笑門(白保小1年)
 優良賞 松村力(西崎小3年)
 神谷明花(西崎小3年)
 三島香奈子(白保小1年)
 半嶺当真(宮良小1年)
 高良愛(西崎小3年)
 多宇正照(白保小1年)

小学校(高)の部(13名)

最優秀賞 木田夕海(山小6年)
 優秀賞 仲利綺海(鏡原小6年)
 優良賞 稲村京香(小緑小6年)
 入米嶺藍奈(高嶺小5年)
 宮平蔵美月(真喜良小6年)
 川萌(当山小6年)
 下満風紗(大謝名小6年)
 水地真央(若狭小6年)
 関田久(池間小6年)
 伊良蓮人(北美小6年)
 天皆結惟(美里小6年)
 狩久々愛(神森小6年)
 宏箕(鏡原小5年)

中学校の部(12名)

最優秀賞 仲宗根莉愛(上野中3年)
 優秀賞 吉本彩花(宮里中2年)
 優良賞 屋我城妃聖(宮里中2年)
 運天意識(神森中3年)
 比嘉茜(与勝中3年)
 平良七(佐敷中2年)
 名嘉真妃奈(上山中2年)
 平山櫻子(首里中3年)
 田中樹里亜(与勝中3年)
 佐久本采佳(与勝中3年)
 稲田かずは(真志喜中3年)

高等学校の部(15名)

最優秀賞 久手堅彰(知念高1年)
 優秀賞 平宮良清(小緑高3年)
 宮城羽林(普天間高1年)
 宮城花林(知念高3年)
 優良賞 村川千夏(豊見城南高2年)
 當石奈津菜(小緑高2年)
 川舞(普天間高1年)
 桑江優季(浦添工業高1年)
 新城江里(南風原高1年)
 金城ひめの(読谷高3年)
 仁井田将宗(豊見城高3年)
 砂川愛恵(真和志高2年)
 天久聖(首里高1年)
 玉城夏穂(本部高1年)
 又吉来夢(宜野湾高1年)

特別支援の部(6名)

最優秀賞 天上願綾音(神高特支)
 優秀賞 大上嶋雅(山田小6年)
 優良賞 瀨野蒼良(高嶺小5年)
 宮平友郁(西原東中3年)
 宮翁長(西原東中3年)

作文部門

小学校(低)の部(3名)

最優秀賞 森心羽菜(白保小1年)
 優秀賞 小笹林檎(宮良小1年)
 優良賞 新盛愛結(宮良小1年)

小学校(高)の部(4名)

最優秀賞 運天彩和(与儀小5年)
 優秀賞 高井楽々(真和志小6年)
 優良賞 松原愛花(ゆたか小6年)
 田桃果(与儀小5年)

中学校の部(8名)

最優秀賞 安仁屋紫月(開邦中2年)
 優秀賞 大相城花恋(東風平中3年)
 優良賞 坂井倫愛(港川中2年)
 天久翔(港川中2年)
 知ひとみ(神高中2年)
 津名沙璃菜(潮平中2年)
 中波さくら(佐敷中3年)
 本百音(玉城中3年)

高等学校の部(7名)

最優秀賞 新里美結(那覇国際高2年)
 優秀賞 石川寛人(首里高3年)
 徳元美穂(開邦高3年)
 優良賞 仲間妃奈(那覇国際高3年)
 我那覇寛乃(開邦高3年)
 岸本葉月(首里高3年)
 瑞慶覧菜緒子(首里高3年)

特別支援の部(3名)

最優秀賞 金城夏海(神高特支2年)
 優秀賞 秋元琴音(神高特支2年)
 優良賞 前田大樹(神高特支2年)

詩部門

小学校(低)の部(4名)

最優秀賞 三島香奈子(白保小1年)
 優秀賞 屋宜和寿(松島小1年)
 優良賞 前花姫愛乃(宮良小1年)
 多和田美月(天久小3年)

小学校(高)の部(10名)

最優秀賞 上原路(糸満南小6年)
 優秀賞 木村一杏南(普天間第二小6年)
 大城洋輔(登野城小4年)
 優良賞 豊見本真央(ゆたか小6年)
 津嘉山理人(与儀小5年)
 當間ありす(ゆたか小6年)
 蔵屋美羽(上田小6年)
 西脇美翔(豊崎小5年)
 岡本琉希(アミークス小6年)
 上原小春(伊良波小6年)

中学校の部(11名)

最優秀賞 相良倫子(港川中2年)
 優秀賞 仲村渠恵美梨(玉城中3年)
 池原生恵(港川中1年)
 平良瑠菜(港川中2年)
 仲西康生(港川中2年)
 仲清座広菜(開邦中2年)
 宮下水碧(開邦中2年)
 島下紅碧(開邦中1年)
 中村仲晴れ(開邦中2年)
 比嘉嘉莉子(港川中2年)
 比嘉悠乃(港川中2年)

高等学校の部(10名)

最優秀賞 上原愛音(宮古高3年)
 優秀賞 高伊重季(宮古高3年)
 金城福瑠菜(糸満高3年)
 優良賞 松川達己(那覇西高2年)
 大田まりや(宮古高3年)
 伊波智賀(那覇西高2年)
 本村智哉(中部農林高4年)
 友利拓子(那覇西高2年)
 嘉数桃子(宮古高3年)
 数えみ(豊見城高1年)

特別支援の部(7名)

最優秀賞 川野友暉(神高特支1年)
 優秀賞 横山美悠莉(神高特支2年)
 知桂(那覇小2年)
 優良賞 瀨名波響(神高特支2年)
 島田杏奈(神高特支2年)
 金武良起(神高特支2年)
 照屋真由(神高特支2年)

JICA草の根技術協力事業 2016-2017 「沖縄・カンボジア 博物館から発信する平和教育普及プロジェクト」

① シンポジウム 4月22日(土) 14時～16時半 2F 大会議室

当館が実施しているJICA事業の成果を県民に還元することを目的にシンポジウムを開催しました。八重山商工（米田美由紀教諭）と首里高校（大城エリカ教諭）が実践した公開授業の内容を紹介し、沖縄戦とカンボジアにおけるクメール・ルージュ政権による虐殺について、その実相と教訓を比較し共通項を見出していきました。さらに、これからの平和教育の在り方について、パネリストと参加者が意見交換を図りました。

② JICA事業の終了時評価及びミニッツ締結のための専門家派遣（館長ほか）

5月21日(日)～5月27日(土) カンボジア王国 国立トゥールスレン虐殺博物館

2009年から続いたトゥールスレン虐殺博物館への支援事業も最後となります。平和教育普及に焦点を当てた今回の支援事業を通して、トゥールスレン虐殺博物館の理念であるビジョンとミッションが初めて策定され、「学習の手引き」が発刊されました。また、理念を踏まえた平和講話指導計画をもとに教育普及チームによる公私立学校への講話もスタートしています。カンボジアと沖縄県が強い絆で結ばれた支援事業となりました。

（写真は 事業終了ミニッツ締結の様子）



平成29年度 第1回子ども・プロセス企画展「戦時下の教育と沖縄戦」

日中戦争が1937年に始まると、日本は本格的な戦時体制になりました。政府は国家総動員法を制定し、資源や労働力を総動員しました。また、国民の戦意を高め協力させるために、「尽忠報国」などを戦時標語にしました。

今回の企画展「戦時下の教育と沖縄戦」では、当時の日本が、国民を戦争に総動員するために、子どもたちにどのような教育を行っていたのかを中心に展示しました。また、国民学校の重要な役割が優秀な兵隊を育てることだったことから、当時の徴兵制度や少年兵の募集についても説明しました。当館は教育勅語の実物を公開していますが、この機会に児童向けの資料紹介も行いました。

展示した資料は、戦時中の教科書を中心に、写真や雑誌、臨時召集令状、慰問文など102点で、複製資料を閲覧できるコーナーも設けました。当時の小学生の教科書を多数展示したことから、県内の小学生や県外からの修学旅行生が興味深く見学していました。



沖縄県平和祈念資料館 第18回特別企画展 「戦世と沖縄芝居 ～夢に見る沖縄 元姿やししが～」

今年度の特別企画展を標記のテーマで、下記の通り開催します。多くの県民の皆様にご覧いただきたいと思います。

1 開催場所および期間

沖縄県平和祈念資料館（1階企画展示室） 平成29年10月5日（木）～ 12月10日（日）
八重山平和祈念館（第2展示室） 平成30年1月20日（土）～ 2月22日（木）

2 内容

沖縄は芸能の宝庫といわれる。華やかな衣装に身を包んだ琉球舞踊や美しい音色を響かせる琉球音楽など、私たちの先祖は喜び、悲しみなどのさまざまな感情を、その豊かな感性と表現力で「琉球芸能」といわれる芸術の高みまで昇華させてきた。なかでも組踊をはじめとする「琉球芸能」は琉球王国時代までは、いわゆる宮廷舞楽であり、王族や士族など一部の人のみがその美しさを楽しんできた。

ところが、明治期に入り、廃藩置県がおこなわれ琉球王国が解体すると、これら宮廷舞楽が一部の上層階級のものから、世間一般へ広く受け入れられるようになった。やがて、組踊をはじめとする宮廷舞楽は、庶民のニーズを反映させた「沖縄芝居」という新たな芸能を生み出す。

舞台芸術は、音楽、美術、舞踊、文学など多岐におよぶ文化的、精神的要素を網羅した総合芸術であり、自由で豊かな表現活動の場でもある。

しかし、琉球王国時代から廃藩置県という世替わりを経験し、大きな歴史的転換点で生まれた「沖縄芝居」は、その後も時代の荒波にもまれ、自由な表現活動はおろか、さまざまな政治的規制や批判を受けるなど、大きく時代の波に翻弄されることになる。

人間がもつさまざまな感情、たとえば喜び、悲しみ、楽しさ、苦しさなどを表現したり、あるいは自分の思うことを自由に表現するという行為は他者から制限されるものではない。「表現の自由」が保障された現代ではあたりまえのことだが、過去には表現が「不自由」だった時代があり、「沖縄芝居」はその不自由だった時代を乗り越えて現代まで継承されている。

この展示会では、「沖縄芝居」の成立から庶民の受容、マスコミによる「沖縄芝居」への批判、戦時体制における「沖縄芝居」の受難と変容、戦後の復活など、時代や世相に翻弄されながらもたくましく生き続けてきた「沖縄芝居」を歴史と照らし合わせながら展示会を構成していく。

3 展示の構成

第Ⅰ部 沖縄芝居のはじまり

沖縄芝居の誕生
日清・日露戦争と沖縄芝居
近代沖縄女性と沖縄芝居

第Ⅱ部 沖縄芝居の受難

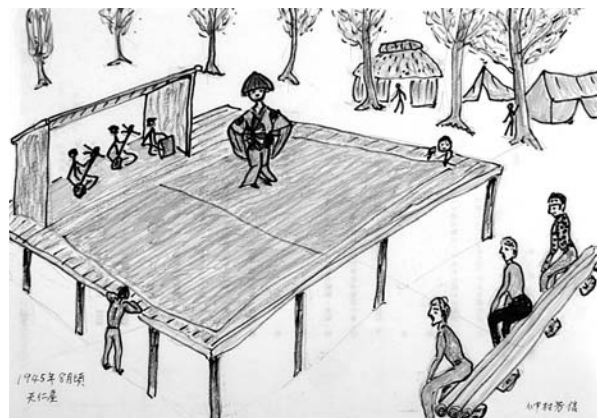
法による規制
新聞による批判

第Ⅲ部 戦世と沖縄芝居

戦時下の沖縄
灰燼に帰す沖縄芝居

第Ⅳ部 戦後の復活といま

沖縄芸能の復活
時代へ受け継がれる「沖縄のこころ」



1945年8月 収容所での演芸会



検閲済み脚本(大宜見家提供)

第一回ギャラリー展「72年前の子ども達が見た沖縄戦」

今年度より、学芸班非常勤職員による自主企画展として、ギャラリー展を開催することとなりました。

第一回目となる今回は、沖縄戦当時18歳以下だった戦争体験者が描いた「沖縄戦の絵」に焦点をあて、72年前の子ども達が見た戦場の風景や、自身が体験した出来事など戦後描かれた数ある絵の中から16点を紹介しました。

戦争を知らない世代が多くを占める現代、次代を担う子どもたちが、沖縄戦の絵を通して72年前の子どもたちの戦争の記憶を辿り、戦争の悲惨さ、家族や命、平和の尊さについて改めて考える機会としました。

会期中は、慰霊の日と重なったこともあり、多くの学生や家族連れの方々が観覧して下さいました。また、今回、英語の解説文を付けたことで外国からの来館者も足を止め、熱心に解説や絵を見ている様子が見受けられました。

開催期間：平成29年6月1日（木）～7月31日（月）



友の会活動状況

1 沖縄県平和祈念資料館友の会（平成17年設立）では、資料館と連携しながら学習会やフィールドワークを自主的に行うとともに、以下のような活動を行っています。

- (1) 地域（県全域）および学校における平和学習の支援
- (2) 県外からの平和学習団体への講和・ガイド
- (3) 沖縄県平和祈念資料館常設展示室での解説

2 活動状況（平成29年4月から6月30日現在）

(1) 平和講話・ガイド実績

団 体	実施件数（昨年度比）	実施人数（昨年度比）	派遣講師（昨年度比）
高 等 学 校	17件（+3）	6,269名（+1,166）	17名（+3）
中 学 校	51件（+3）	9,897名（+3,693）	76名（+28）
小 学 校	19件（±0）	8,293名（-878）	20名（+1）
そ の 他	8件（+2）	147名（-98）	8名（+2）
合 計	95件（+8）	24,606名（+3,883）	121名（+34）

県内：小学校15校、中学校11校、高校5校

県外：小学校4校、中学校40校、高校12校

- (2) 常設展示室解説委員 配置実績15人
平成29年4月～6月
- (3) 平和祈念財団こいのぼり掲揚事業への協力
- (4) 平成29年度 友の会総会 5月13日（土）
- (5) 学習会：平和学習ウォーク 5月20日（土）
「月桃の花咲く頃 安里から～首里への道」
講師：仲村 真氏



平成29年度友の会総会の様子

八重山平和祈念館 平成29年度事業実施報告

(1) 「八重山地域マラリア防遏の歴史～患者ゼロを達成するまで～」

【期間】平成29年6月1日（木）～6月21日（水）

八重山で古くからみられたマラリア。主にその対策に従事した医師、研究者等に焦点をあてた展示で、マラリア患者がゼロを達成するまでの様子を伝えました。

訪れた方からは「マラリアを通して、八重山の歴史をあらためて確認することができた」「戦争マラリアが有名だが、以前からある病気とは知りませんでした」等の感想が寄せられました。



(2) 「初任者教諭向け利用説明会」

【期間】平成29年5月18日（木）、6月8日（木）

6月の慰霊の日を控え、各学校で平和学習が活発に行われるのに合わせて、主に本年度の新採用教諭を対象に八重山平和祈念館の展示内容の解説や利用方法等についての説明会を実施しました。

今後の平和学習を進める際の参考にさせていただき、児童・生徒をはじめ、多くの方々に当祈念館を利用していただければと思います。



(3) 慰霊の日アニメビデオ上映会

【期間】平成29年6月23日（金）

慰霊の日に合わせて、戦争や平和に関するアニメビデオの上映会（上映作品『石の声』『最後の空襲くまがや』）を実施しました。

アニメ作品ということもあり、多くのお子さま連れが会場に足を運んでくださいました。

これをきっかけに、平和の大切さについて考えてもらえればと思います。



慰霊の日の平和祈念資料館

6月23日(金) 慰霊の日には、沖縄県主催の沖縄全戦没者追悼式が行われました。毎年この日は常設展示室の観覧を無料開放し、開館を午後6時まで1時間延長しています。

今年は、6,924人が来館し、常設展示室には3,619人の観覧者が入場しました。その他館内では「児童・生徒の平和メッセージ展」、「第1回子ども・プロセス企画展：戦時下の教育と沖縄戦」、「慰霊の日ビデオ上映会」、「第1回ギャラリー展：72年前の子ども達が見た沖縄戦」、「マブニ・ピースプロジェクト 沖縄 2017」と多彩なイベントが開催され、平和への願いを新たに作る日となりました。



資料のご提供について

戦後72年を迎え、戦争を知らない多くの戦後世代へ、二度とおこしてはならない戦争の教訓を語り継いでいかなければなりません。そのためには、戦前、戦中、戦後の資料等が重要な役割を果たしていくこととなります。このような資料をお持ちの方、是非ご寄贈下さいますよう、御協力お願い致します。詳しくは、沖縄県平和祈念資料館までお問い合わせ下さい。

資料の貸出しについて

当資料館では、「沖縄戦体験者証言ビデオ」、「沖縄戦写真パネル」、「沖縄戦の絵」、「実物資料」、「平和学習キット」の貸出しを行っています。平和学習の補助教材として、県内外学校からの申込みをお待ちしております。

県内学校向け平和講話について

沖縄戦の歴史的教訓を次代へ正しく伝えることが急務となっています。当館では沖縄戦の理解と平和のために何ができるかを考えてもらうきっかけとなるよう、県内の小中高校、特別支援学校に対する「平和講話」を実施しております。内容は、沖縄戦に至るまでの歴史的経緯や沖縄戦の特徴、常設展示室の見所などです。総合学習等の一環としてさらなる活用をお願いします。年間を通して実施しておりますが、4月から慰霊の日にかけては込み合いますので早めの御予約をお願いします。

編集・発行：沖縄県平和祈念資料館

住所 〒901-0333 沖縄県糸満市摩文仁614番地の1
URL <http://www.peace-museum.pref.okinawa.jp/>

TEL 098-997-3844 FAX 098-997-3947
E-MAIL webmaster@peace-museum.pref.okinawa.jp



日本平和博物館会
ASSOCIATION OF JAPANESE MUSEUMS FOR PEACE